REGIONAL ECONOMY

東日本・西日本

中小製造業、解決策探る

資材調達難 拡大の一途

製造業の資材調達難が広がる一方だ。不足している資材も半導体にとどまらず、樹脂製品や木材などあらゆる分野に及び、中小企業にとっても死活問題になっている。一部で緩和の兆しが見えてきたとの見方もあるが、新年も当分は厳しい状況がつづきそうだ。

「これが当社のノウハウの塊であり他社とは違う強み」とし、踏ん張る構えだ。

洗浄機器や特殊エアブローノズルを開発・製造するガリュー（東京都杉並区）では樹脂のチューブが不足している。主力製品のメカスイングノズルなどに使われる主要チューブの緩衝材となるチューブが、国内メーカーには在庫がなく中国の商社から取り寄せた。

しかし、主要部品に関しては代替品がない。同じ素材でもメーカーによって引っ張り強度や柔軟性などの特性が微妙に異なり、ノズルの性能や寿命に大きく影響するためだ。長谷川可賀会長は「1年分の発注は無事にかけられた。ないとお手上げ状態だった」という。

空気制御に使うバルブや一部の装置のノズルを駆動するリニアモーターなども2―3カ月待ちの状態だ。常時消費する部品は1年分ほどストックするが、部品の種類が多いため年間数個しか使わない部品も同じように対応するわけにはいかない。長谷川会長は「10個しかない部品を20―30の会社が取り合うような状況になっている」と指摘する。

各メーカーには「取引の実績などを踏まえて出荷を早めてもらうよう交渉している」（奥山社長）という。注文のキャンセルはないが、「見積もりの段階で納期が8カ月以上かかるなら注文はやめておく」とする顧客もあり、失注は出ているようだ。

同社が部品不足の状況になったのは2021年の夏前から。「元々、必要な部品は在庫を持って対応してきたが、それも使い切ってしまった」と悔しげだ。「解消まであと1年はかかる」と覚悟している。

木材も品不足が長期化している。コロナ禍における木材の価格高騰「ウッドショック」以降、製材・合板とも輸入材の入荷が少なく国産材への代替え需要が高まった。しかし供給量には限界があり、特に合板の品不足は現在も続く。

ある業界関係者は木材のチップを加熱圧縮した板「パーティクルボード」の欠品についても危惧する。マンションなどの床を上げ底段差を解消できる工法に用いるため、「リノベーション業者はこれがないと仕事にならない」と不安を隠さない。

納期約束できず

湿度制御装置などの開発や設計を手がけるマイクロ・イクイップメント（東京都新宿区）では、半導体をはじめとする各種部品不足に見舞われている。個別仕様案件の引き合いがある中、小倉正大社長は「先々の見通しが立たない。顧客に納期を約束できなくなっている」と嘆く。部品商社に先々の分までまとめて発注しているが、納入できるものから順次受け取っている状態だという。

一方、同社では主力製品の心臓部にあたる還流式飽和槽は内製化している。小倉社長は「10個しかない部品を20―30の会社が取り合うような状況になっている」と指摘する。

各メーカーには「取引の実績などを踏まえて出荷を早めてもらうよう交渉している」（奥山社長）という。注文のキャンセルはないが、「見積もりの段階で納期が8カ月以上かかるなら注文はやめておく」とする顧客もあり、失注は出ているようだ。

同社が部品不足の状況になったのは2021年の夏前から。「元々、必要な部品は在庫を持って対応してきたが、それも使い切ってしまった」と悔しげだ。「解消まであと1年はかかる」と覚悟している。

木材も品不足が長期化している。コロナ禍における木材の価格高騰「ウッドショック」以降、製材・合板とも輸入材の入荷が少なく国産材への代替え需要が高まった。しかし供給量には限界があり、特に合板の品不足は現在も続く。

ある業界関係者は木材のチップを加熱圧縮した板「パーティクルボード」の欠品についても危惧する。マンションなどの床を上げ底段差を解消できる工法に用いるため、「リノベーション業者はこれがないと仕事にならない」と不安を隠さない。

世界的な半導体不足があらゆる製造業に影響を与えている（イメージ＝ブルームバーグ）

解消まで1年 覚悟

米国内の倉庫に積み上げられた材木ボード。米国での強い住宅向け需要が日本の合板不足に拍車をかけている（ブルームバーグ）

木材も品不足が長期化

長谷川会長は「現在は通常納期で提供できているが、何が不足するかも読めない。情報収集してアンテナを張るしかない」と警戒する。

電線処理機やロボットシステムを手がけるHCI（大阪府泉大津市）も部品調達に頭を悩ませる。機械の制御や動作に欠かせないプログラマブルロジックコントローラー（PLC）とその周辺機器をはじめ、サーボモーター、ロボットコントローラー、インバーター、空圧機器、直動ユニットなどの部品や機器が不足している。奥山剛旭社長は「PLCは従来、2―3カ月だった納期が1年程度に伸びている」とし、「10個しかない部品を20―30の会社が取り合うような状況になっている」と指摘する。

各メーカーには「取引の実績などを踏まえて出荷を早めてもらうよう交渉している」（奥山社長）という。注文のキャンセルはないが、「見積もりの段階で納期が8カ月以上かかるなら注文はやめておく」とする顧客もあり、失注は出ているようだ。

同社が部品不足の状況になったのは2021年の夏前から。「元々、必要な部品は在庫を持って対応してきたが、それも使い切ってしまった」と悔しげだ。「解消まであと1年はかかる」と覚悟している。

木材も品不足が長期化している。コロナ禍における木材の価格高騰「ウッドショック」以降、製材・合板とも輸入材の入荷が少なく国産材への代替え需要が高まった。しかし供給量には限界があり、特に合板の品不足は現在も続く。

ある業界関係者は木材のチップを加熱圧縮した板「パーティクルボード」の欠品についても危惧する。マンションなどの床を上げ底段差を解消できる工法に用いるため、「リノベーション業者はこれがないと仕事にならない」と不安を隠さない。

ちょっと訪問

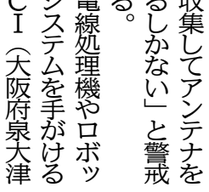
トクソー技研

現場の声 独自技術で形に

医療機器や介護福祉機器を製造するトクソー技研。2021年10月に徳永修一会長（前社長）の長男である浩幸氏が社長に就任した。

「新型コロナウイルスの影響で日本製の機器が見直されつつある。安心して使ってもらえることをPRしていきたい」と意気込む。

10年ほど前に製品化した自動痰吸引器の技術を生か し、寝たきり患者向けの唾液の吸引器を開発した。「当社には現場の声を形にしてきたことで独自の技術がある。これからもそこは伸ばしていきたい」と話す。


徳永社長

▽所在地＝大分県宇佐市大根川3180▽資本金＝10000万円▽売上高＝26000万円（21年6月期）▽従業員＝27人▽設立＝97年（平9）10月

人手不足の解消のために単純作業の省力化やデジタル化に着手した。「人は、人がやらないといけないことに注力する」ことで、限られた人材の有効活用を目指す。（大分）

名古屋百貨店13%増

12月売上高 季節アイテム好調

【名古屋】名古屋地区主要4百貨店の2021年12月の売上高合計（速報値）は、前年同月比13・7%増の456億5600万円だった。前年の新型コロナウイルス感染症の影響の反動増もあり、前年実績を上回った。季節アイテムが好調に推移し、冬物婦人衣料などが伸長した。

「ジェイアール名古屋タカシマヤ（タカシマヤゲートタワーモールを含む）の売上高は同19・0%増の178億5000万円。婦人服のほか、クリスマスケーキなどの食品の売れ行きが好調だった。「松坂屋名古屋店」は同12・7%増の149億3100万円。名古屋三越は「栄店」など3店合計の売上高が同4・0%増の88億6700万円だった。「名鉄百貨店本店」は同18・7%増の40億8000万円。また、21年1―12月の売上高合計（同）は同10・3%増の343億5500万円だった。

消毒液・加湿器に噴霧用アルカリイオン水を発売

コバテクノなど

【浜松】コバテクノロジー（浜松市東区、小林剛社長）は、Eプラン（千葉県船橋市、松澤民男社長）と連携し、消毒液や加湿器などでの噴霧用のアルカリイオン水「にこるんアルカリVG」を発売した。Eプラン独自の電解技術を活用して原材料の炭酸カリウムから除菌力が高いアルカリイオン水を製造する。価格は1リットル1200円前後（消費税抜き）、10リットル7500円前後（同）。

同イオン水は水素イオン指数（pH）値が高く、抗菌・抗ウイルス効果のある強アルカリイオン水。肌が荒れるなど人体への影響はないという。第三者機関での実証試験でインフルエンザウイルスなどへの効果が分かったという。

コバテクはEプランの装置を導入して製造する。詰め替え用パウチを中心に静岡県の医療機関や雑貨店などで販売し、徐々に地域を全国に拡大する。

新川崎VB大賞 最終候補に5社

かわさき新産創センター

【川崎】かわさき新産業創造センター共同事業体が医療・健康やロボットなどの分野の技術系新興企業を対象に開くビジネスコンテスト「新川崎ベンチャー大賞」の最終選考会に、アナウト（横浜市中区、小林直代表）など5社が進出することが決まった。応募31社から選ばれた。2月2日15時から最終選考会を開き、大賞の受賞企業を決める。

技術系ベンチャーに対象を絞った表彰事業は初めて。輸送機器や航空宇宙、素材などを含む先端分野で技術革新に挑戦する企業を発掘する。アナウトは「外科医の視覚・認知判断を支援するAI（人工知能）システムの開発」に取り組んでいる。最終選考会の様子は動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信。ほかに次の4社が最終選考会に臨む。

▽Creator, sNEXT（クリエイターズネクスト、東京都港区、窪田望代表）▽テレメディカ（横浜市青葉区、藤木清志代表）▽Luxonus（ルクソナス、川崎市幸区、相磯貞和代表）▽LexxPluss（レックスプラス、同区、阿蘇将也代表）

県内のグリーン産業育成

岡山県知事 伊原木 隆太氏

VISION 展望 2022

―2021年はアイリスオーヤマが岡山県の瀬戸内市に進出するなど、大型工場の立地が決まりました。

「アイリスオーヤマは13年に、通商産業省（現経済産業省）事務次官を務められ岡山県出身の小長啓一さんから『良い会社があるから会ってみないか』と誘われたのがきっかけ。仙台へ2人で向かい、大山健太郎社長（現会長）とお目にかかった。私も会社経営の経験があるが、独自性がすごい会社だと思った」

―何が立地の決め手になったのですか。

「その後も2年に1回程度はお目にかかった」と言ってくれた。職員には一生懸命、誠実に対応するように指示している。私はいずれ知事を退任するが、これを当たり前のカルチャーとして残した い」

―JFEエンジニアリングの社長らにお礼のあいさつに伺った。同社は製鉄所などがあり、今も県内で生産額トップ3に入る。全力でサポートさせて頂きますとお伝えしました」

―今後は産業用地の確保が課題です。

「うれしい悲鳴といえる。私が知事に就任した9年前は、県の保有分だけで100㌶の用地が売れずに残っていた。景気回復や補助金の新設効果もあり現在はほとんどが売れた。今後は県として新たな産業用地開発はしない。市町村が主体となる。県は開発費用の半分を融資し、企業誘致活動などで支援する」

―地元産業界では人材の確保も課題です。

「地方回帰の機運が高まっていて、県内就職を促進する好機だ。大学などと連携し、多くの学生に情報が伝わるよう努力している」

―2021年はアイリスオーヤマが岡山県の瀬戸内市に進出するなど、大型工場の立地が決まりました。

「アイリスオーヤマは13年に、通商産業省（現経済産業省）事務次官を務められ岡山県出身の小長啓一さんから『良い会社があるから会ってみないか』と誘われたのがきっかけ。仙台へ2人で向かい、大山健太郎社長（現会長）とお目にかかった。私も会社経営の経験があるが、独自性がすごい会社だと思った」

―何が立地の決め手になったのですか。

「その後も2年に1回程度はお目にかかった」と言ってくれた。職員には一生懸命、誠実に対応するように指示している。私はいずれ知事を退任するが、これを当たり前のカルチャーとして残した い」

―JFEエンジニアリングの社長らにお礼のあいさつに伺った。同社は製鉄所などがあり、今も県内で生産額トップ3に入る。全力でサポートさせて頂きますとお伝えしました」

―今後は産業用地の確保が課題です。

「うれしい悲鳴といえる。私が知事に就任した9年前は、県の保有分だけで100㌶の用地が売れずに残っていた。景気回復や補助金の新設効果もあり現在はほとんどが売れた。今後は県として新たな産業用地開発はしない。市町村が主体となる。県は開発費用の半分を融資し、企業誘致活動などで支援する」

―地元産業界では人材の確保も課題です。

「地方回帰の機運が高まっていて、県内就職を促進する好機だ。大学などと連携し、多くの学生に情報が伝わるよう努力している」

記者の目

モノづくりの厚み増す

アイリスオーヤマの新工場は25年10月、JFEエンジニアリングの新工場は24年4月の稼働予定だ。地場の中小製造業は両工場の稼働で受注案件がないか、注目している。重厚長大産業から自動車の量産品まで多様な製造業が立地する岡山県。新設2工場が加わり、モノづくりの厚みがより出てきそうだ。（岡山支局長・大櫛茂成）

ティールーム

服部さん

経済界に風穴

▽…「中小企業のSDGs（国連の持続可能な開発目標）をサポートする」と語るのは、神戸経済同友会代表幹事の服部博明さん。官民連携で推進する「ひょうごSDGs センター（仮称）」開設を、兵庫県と神戸市に提言した。

▽…SDGsに取り組む企業への表彰や金融支援などの制度創設も織り込む。「産官金で普及のスピードを上げる」狙いだ。

▽…SDGsは、サプライチェーン管理でも重要な要素。大企業は独自に対策するが、中小はそうはいかない。「中小での普及率を上げたい」と神戸経済界に風穴を開ける。（神戸）

3つの世界遺産を有し、歴史とともに雄大で繊細な自然環境に恵まれた「日本人のふるさと」奈良県。
経済活性化と雇用の場の創出を最重要課題とし
『栄える「都」』づくりに挑む奈良県への立地をご検討ください。

TOPICS 御所IC周辺で新たな産業用地を創出しています。
【所在地】奈良県御所市 【用途地域】工業系用途地域（予定）
【面積】予定開発面積約12ha/分譲面積約8ha 【最寄】京奈和自動車道御所IC 至近

奈良県 産業・観光・雇用振興部 企業立地推進課 TEL:0742-27-8813

令和4年1月24日(月)
14:30～16:30【14:00～受付】定員：100名
会場：ホテル阪急インターナショナル4階「紫苑」
参加費無料 要事前申込
大阪市北区茶屋町19-19

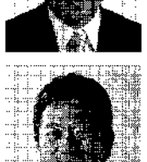
プログラム

14:30 主催者挨拶 奈良県知事 荒井 正吾

14:40 ゲスト講演
『エクセディの事業紹介と事業継続計画(BCP)について』
株式会社エクセディ 代表取締役社長 久川 秀仁 氏
【企業プロフィール】1950年設立。本社 大阪府寝屋川市。
自動車用トルクコンバータやマニュアルクラッチ、建設・産業機械用製品、二輪車用クラッチなどの生産・販売を行う。
奈良県の優遇制度を活用し、京都府内にあった関連会社工場を奈良県へ移転。

15:10 知事プレゼンテーション
『奈良県での新事業展開へのお誘い』
奈良県知事 荒井 正吾

16:00 田原本町長プレゼンテーション
『大和平野中央スーパーシティ構想に向けたまちづくり』
田原本町長 森 章浩



申込締切 令和4年1月14日(金)
参加のお申し込みは、インターネットで受け付けています。
※応募者多数の場合は、ご参加いただけない場合があります。

■ インターネットでのお申し込みは 奈良県企業立地推進課 検索
■ スマートフォン用QRコード

【ご来場時の注意事項】
新型コロナウイルス感染拡大防止のため
以下の項目に該当する方は、当日のご来場をお控えください。
過去2週間以内から現在までに下記❶～❹を含む体調不良のある方。
❶ 体温37.5℃以上 ❸ 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
❷ 強い倦怠感 ❹ 味覚・嗅覚異常などの異変がある